git & GitHub

Git・GitHubの操作



目次

■授業の始めに

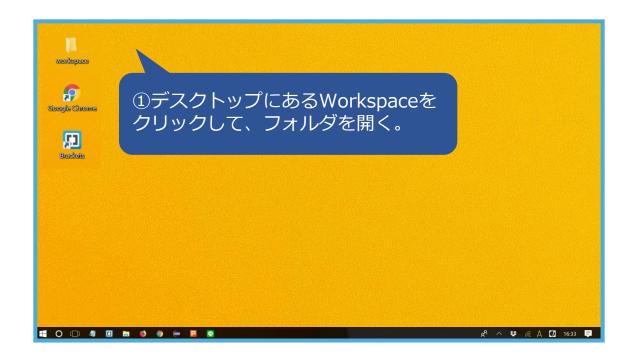
- ・パソコン上に自分のGitHubリポジトリを反映するフォルダを作成する
- ・パソコン上のgitと自分のGithubを連動する(git clone)
- ・パソコン上のgitを操作するためにgitの設定を変更する
- ・ファイルをアップする際の文字制限を変更する
- ・自分の最新版のGitHubリポジトリを 「workspace-自分の苗字」に反映する(git pull)

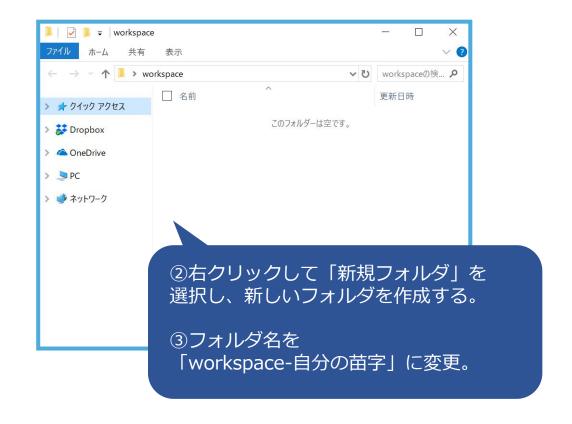
■授業の終わりに

・GitHubへ授業で作成したファイルをアップする (git add、git commit、git push)

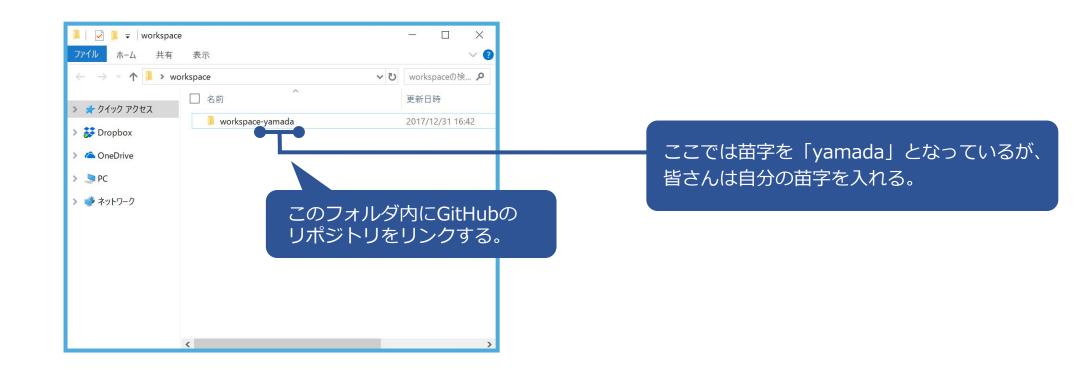
パソコン上に自分のGitHubリポジトリを 反映するフォルダを作る

Workspaceに自分のフォルダを作成①





Workspaceに自分のフォルダを作成②



授業の始めに

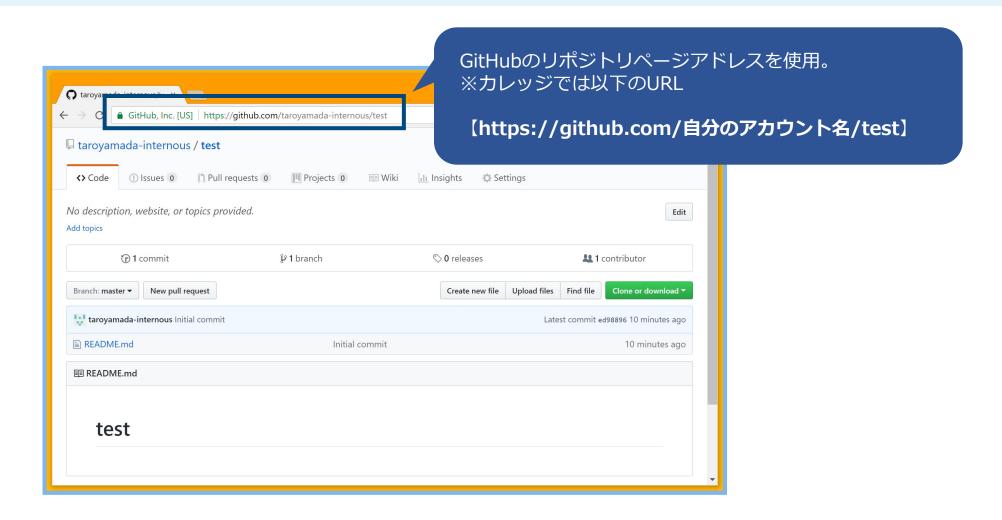
パソコン上のgitと自分のGithubを連動する

= git clone

GitHubのリポジトリアドレスを確認



GitHubのリポジトリをローカル(=PC)にcopy(**=git clone**)する場合、GitHubに表示されているリポジトリのアドレスを使用します。まずは、このアドレスの確認が必要です。



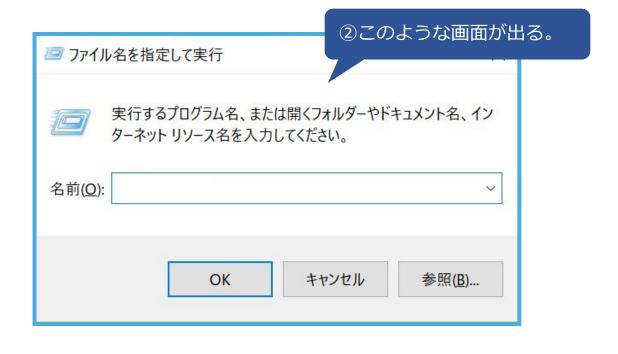
コマンドプロンプトを開く①



コマンドプロンプトはパソコンをマウスで操作をするのではなく、コマンドで操作をするためのツールです。 エンジニアになるとこれを使う機会が増えるので、簡単に触ってみましょう。

「windowsキー」+「R」 を押すと、右のファイル検索画面が出ます。





コマンドプロンプトを開く②

「cmd」と入力し、コマンドプロンプトを開きます。





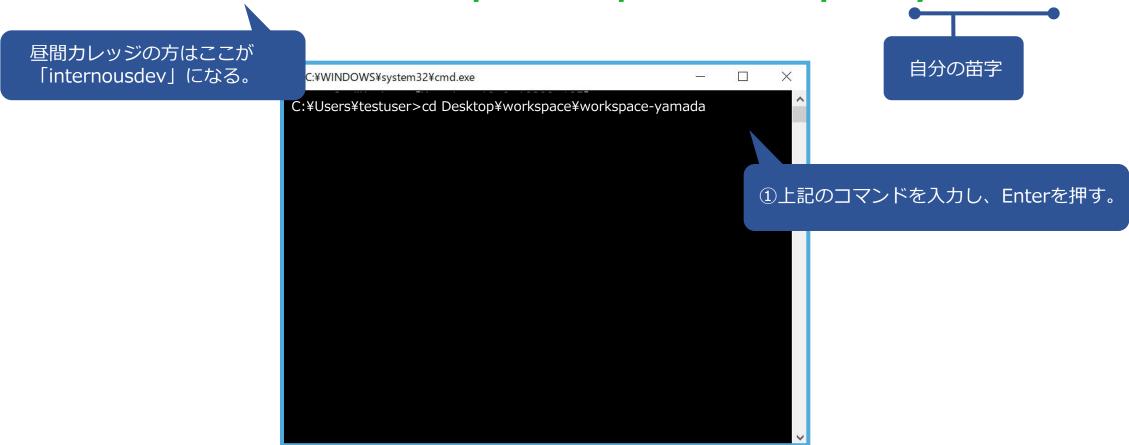
git cloneの方法①



まずコマンドを使って、コピー(=clone)するフォルダまで移動します。

コマンドでの操作はマウスでフォルダを移動すると同じことです。ここではコマンドの意味は理解しなくて大丈夫です。

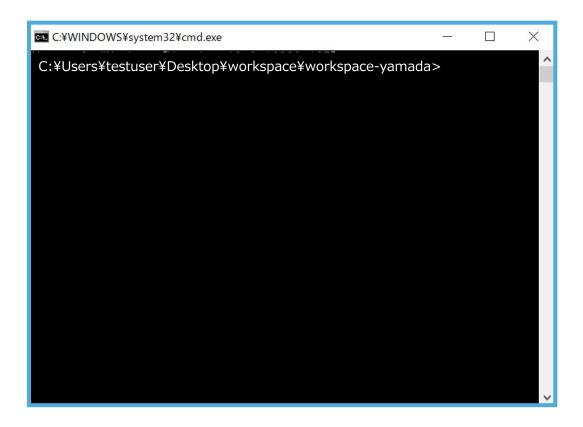
C:\Users\testuser>cd Desktop\text{\text{workspace\text{\text{workspace\text{-yamada}}}}



git cloneの方法②

C:\Users\testuser\Desktop\workspace\workspace-yamada>

という表示に変わります。

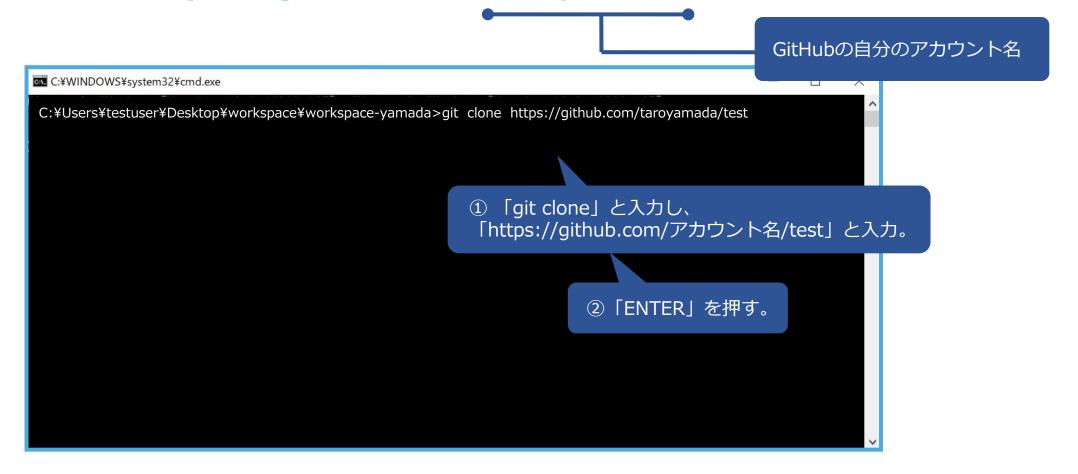


git cloneの方法③



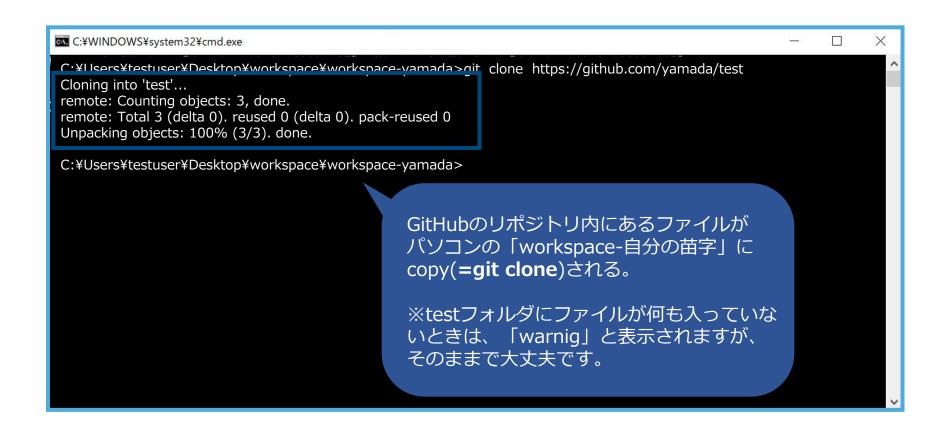
「git clone」はGitHubに作った自分のリポジトリを、使用しているパソコンにコピーするコマンドです。 「workspace-自分の苗字」のフォルダにGitHubのリポジトリをコピーします。

git clone https://github.com/taroyamada/test



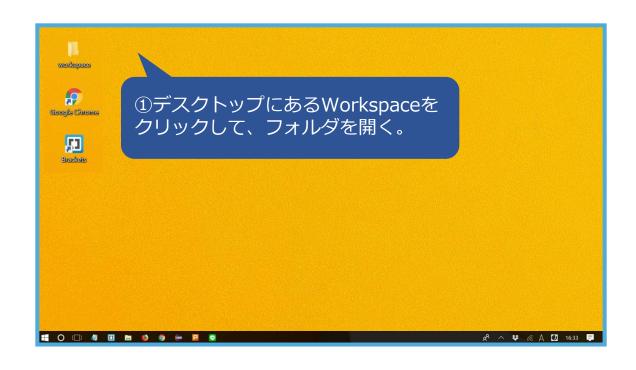
git cloneの結果

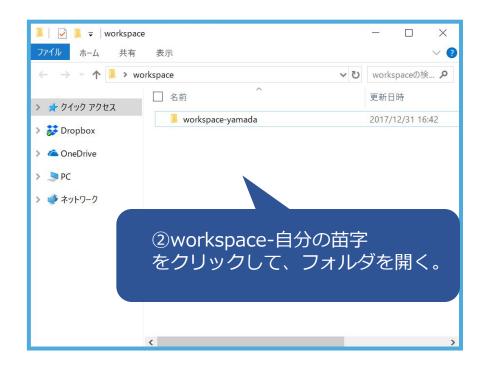
コピー(=git clone)されると、以下のように表示されます。



git cloneの結果を確認①

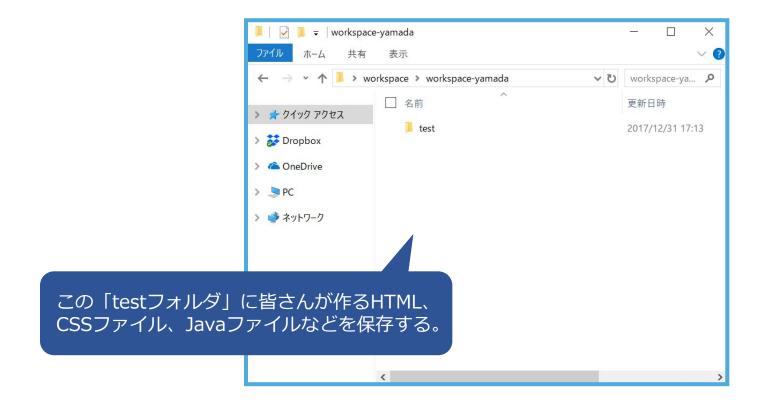
コピー(=git clone)してきたフォルダの中身を確認しましょう。





git cloneの結果を確認②

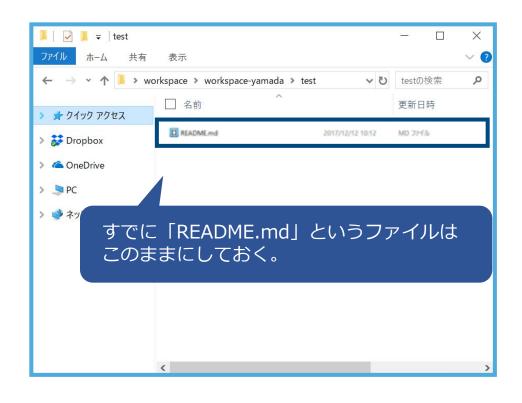
GitHubで作成したリポジトリである「test」が入っていればOKです。

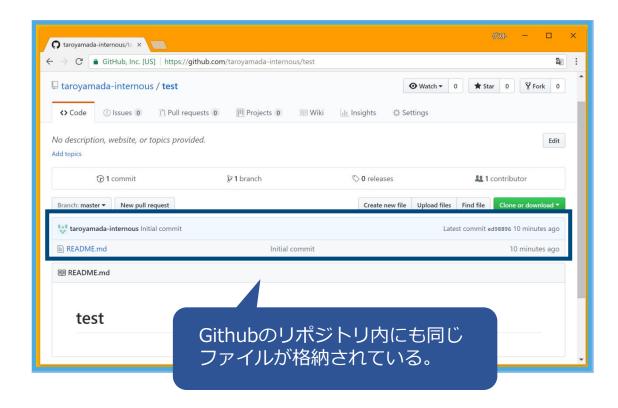




git cloneの結果を確認③

「test」フォルダの中には「README.md」が保存されていますが、 そのままにしておいてください。



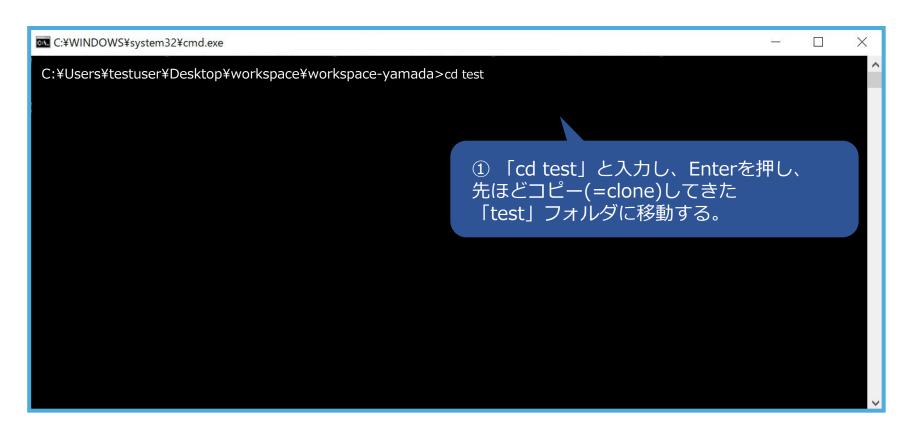


授業の始めに

パソコン上のgitを操作するために gitの設定を変更する

gitとGitHubを連携させる設定①

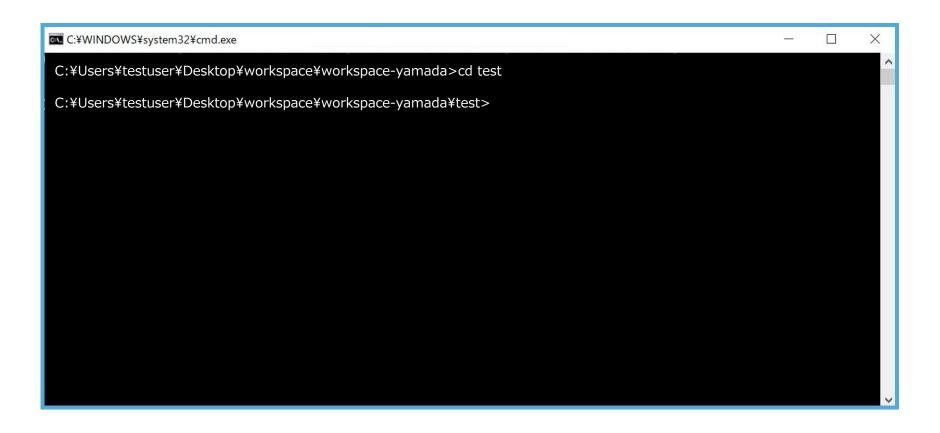
自分のGitHubからファイルのアップロードができるように、 各パソコンに入っているgitの設定をします。



gitとGitHubを連携させる設定②

C:\Users\testuser\Desktop\workspace\workspace-yamada\test>

という表示になったと思います。

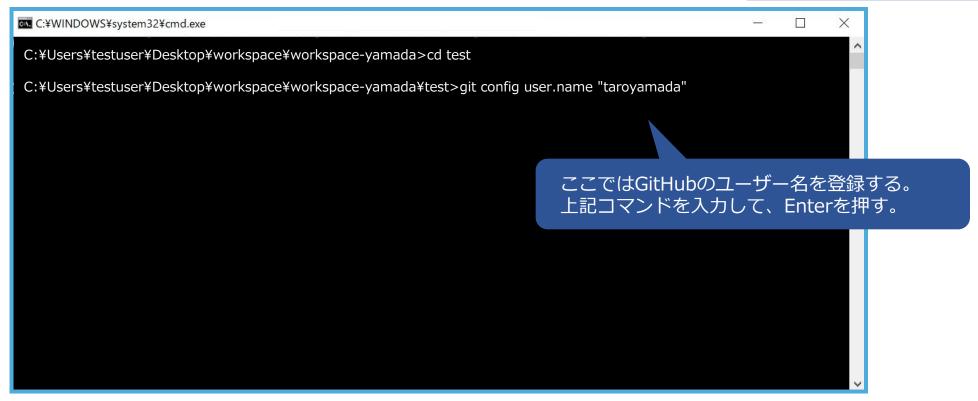


gitとGitHubを連携させる設定③

必ず半角スペースを空ける。

git config user.name "taroyamada"

GitHubの自分のアカウント名



gitとGitHubを連携させる設定④

C:¥WINDOWS¥system32¥cmd.exe

必ず半角スペースを空ける
git config user.email "yamada1225@gmail.com"

GitHubに登録したメールアドレス

C:\Users\testuser\Desktop\workspace\workspace-yamada>cd test

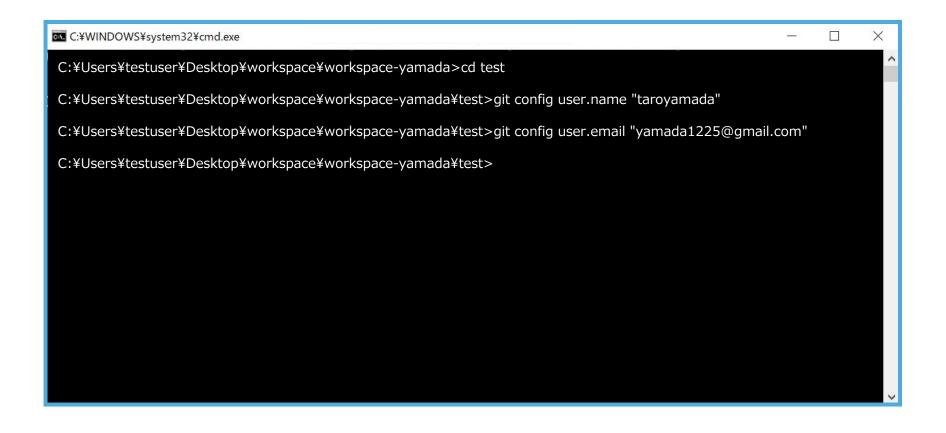
C:\Users\testuser\Desktop\workspace\workspace-yamada\test>git config user.name "taroyamada"

C:\Users\testuser\Desktop\workspace\workspace-yamada\test>git config user.email "yamada1225@gmail.com"

ここではGitHubのユーザー名を登録します。 上記コマンドを入力して、Enterを押す。

gitとGitHubを連携させる設定⑤

これでgitの設定は終了です。



授業の始めに

ファイルをアップする際の文字制限を変更する

アップロードする文字制限を変更①

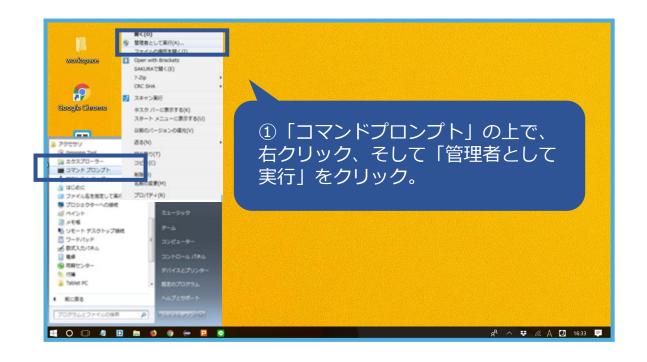
解説

Githubにファイルをアップロードする際、初期の設定だとファイル名の文字数に上限があり、アップロードできないファイルが出てきます。そこで、文字制限を変更します。





アップロードする文字制限を変更②



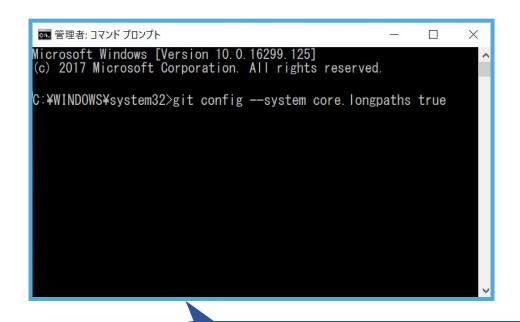


アップロードする文字制限を変更③

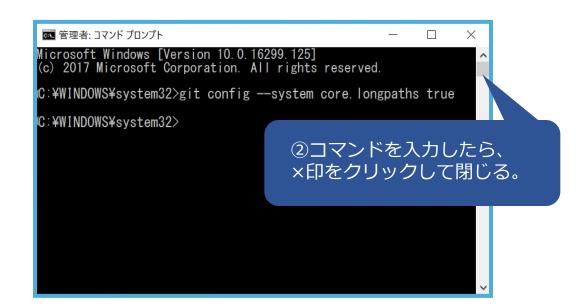


Githubにアップロードする文字数上限をなくすためのコマンドです。ここで入力するコマンドは覚えなくて大丈夫です。 このコマンドで設定が変更されますので、Gitの設定は終了です。

git config --system core.longpaths true



①コマンドプロンプトが表示されるので、 上記のコマンドを入力し、Enterを押す。



授業の始めに



研修以外でGitHubを使用した方は、更新されたGitHubを自分の「workspace-自分の苗字」に反映する必要があります。 そのときに「git pull」を行います。前回作業したときからGitHubが更新されていない場合は、必要ありません。

自分の最新版のGitHubリポジトリを

「workspace-自分の苗字」に反映する

= git pull

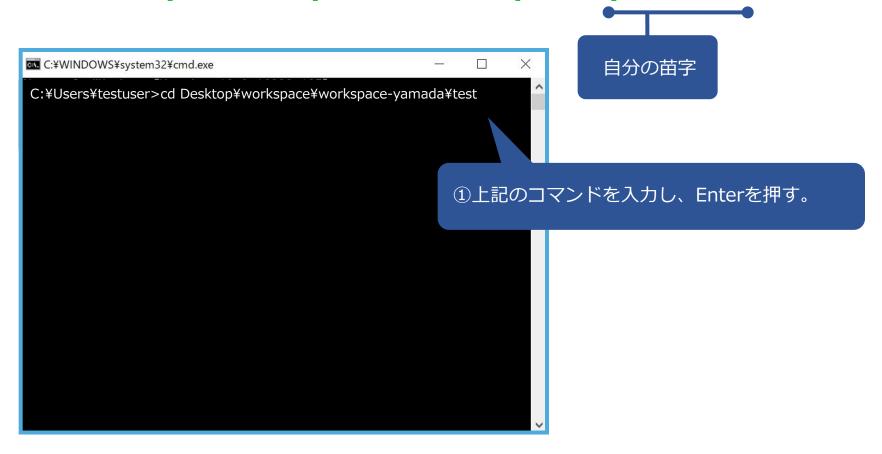
testフォルダへの移動①



まずは「workspace-苗字」の中にある「test」フォルダに移動します。

C:¥Users¥testuser>cd Desktop¥workspace¥workspace-yamada¥test

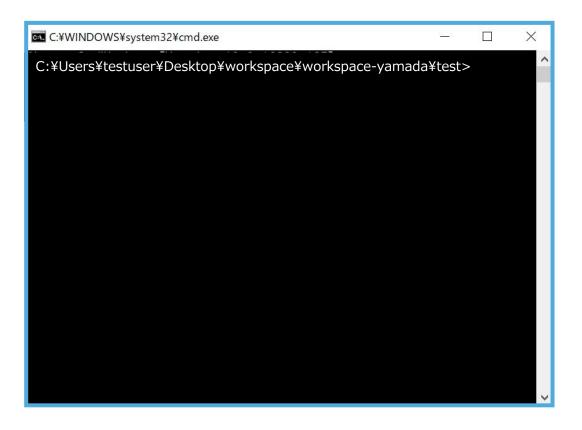
昼間カレッジの方はここが 「internousdev」と表示。



testフォルダへの移動②

C:\Users\testuser\Desktop\workspace\workspace-yamada\test>

という表示に変わります。

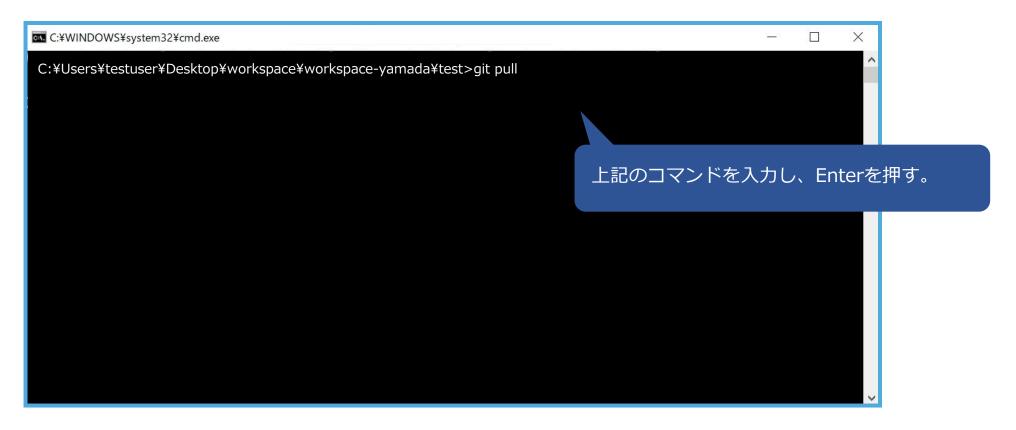


ローカルリポジトリへの反映(git pull)①

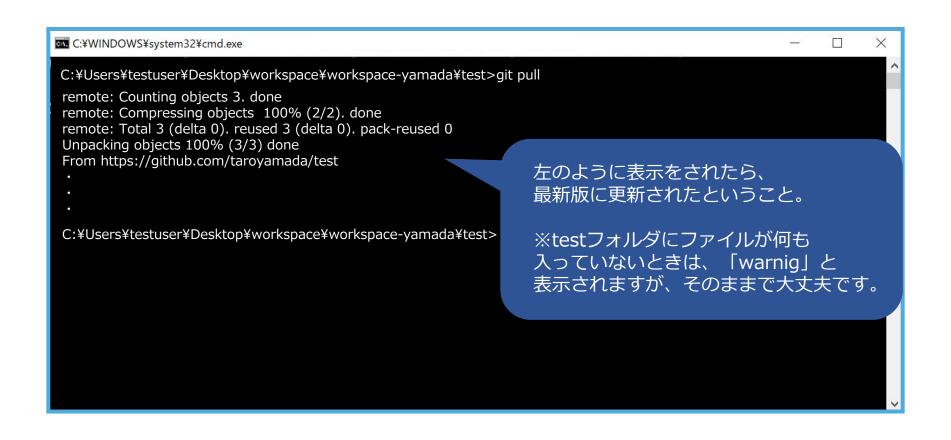


workspace-自分の苗字フォルダの中にある「test」にいる状態で、git pullコマンドを使用します。

git pull



ローカルリポジトリへの反映(git pull)②



授業の終わりに

GitHubへ授業で作成したファイルをアップする

- = git add
- = git commit
- = git push

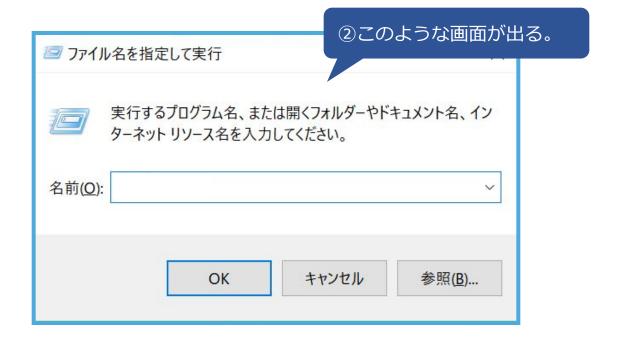
ファイルを「test」フォルダに移動する



コマンドプロンプトを開く①

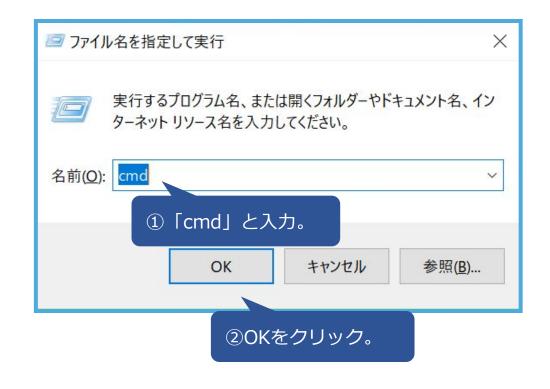
「windowsキー」+「R」 を押すと、右のファイル検索画面が出ます。

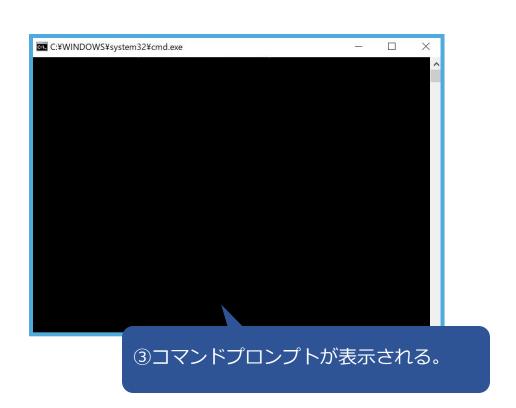




コマンドプロンプトを開く②

「cmd」と入力し、コマンドプロンプトを開きます。





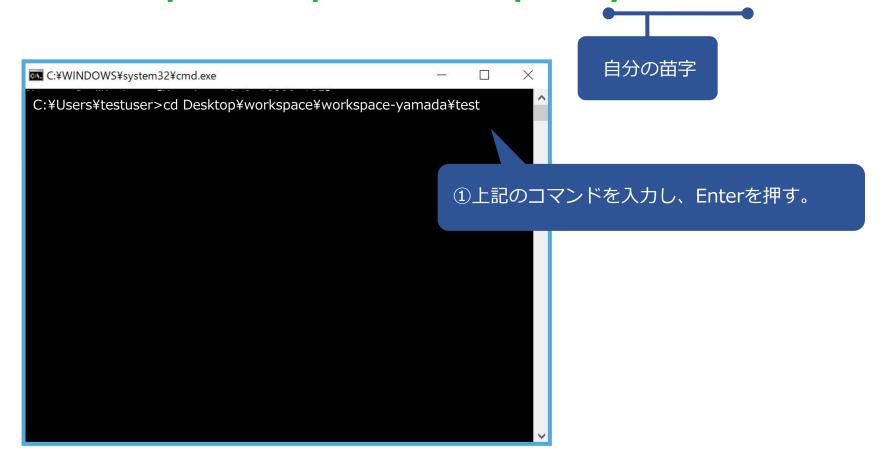
testフォルダへの移動①



まずは「workspace-苗字」の中にある「test」フォルダに移動します。

C:¥Users¥testuser>cd Desktop¥workspace¥workspace-yamada¥test

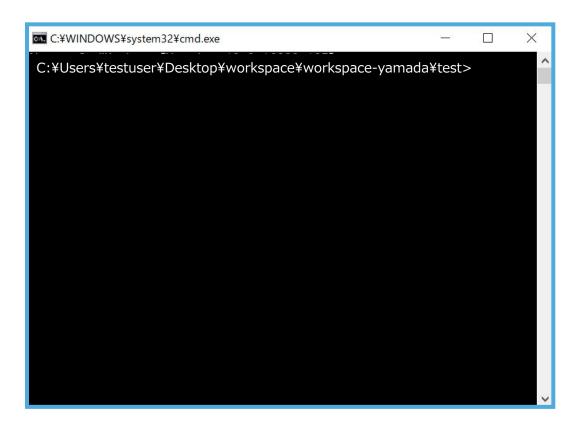
昼間カレッジの方はここが 「internousdev」となる。



testフォルダへの移動②

C:\Users\testuser\Desktop\workspace\workspace-yamada\test>

という表示に変わります。



リモートリポジトリへの反映(git add)



workspace-自分の苗字フォルダの中にある「test」に保存しているファイルをGitHubにアップするときに、 まずgit add --allというコマンドを使います。GitHubにアップする準備をしますよ、というコマンドです。

git add --all



リモートリポジトリへの反映(git commit)



次にアップするときのコメントを残すgit commit -m "コメント"と入力しました。 コメントは任意のコメントを入れてください。(例:作業日の日付など)

必ず半角スペースを空ける。

git commit -m "コメント"

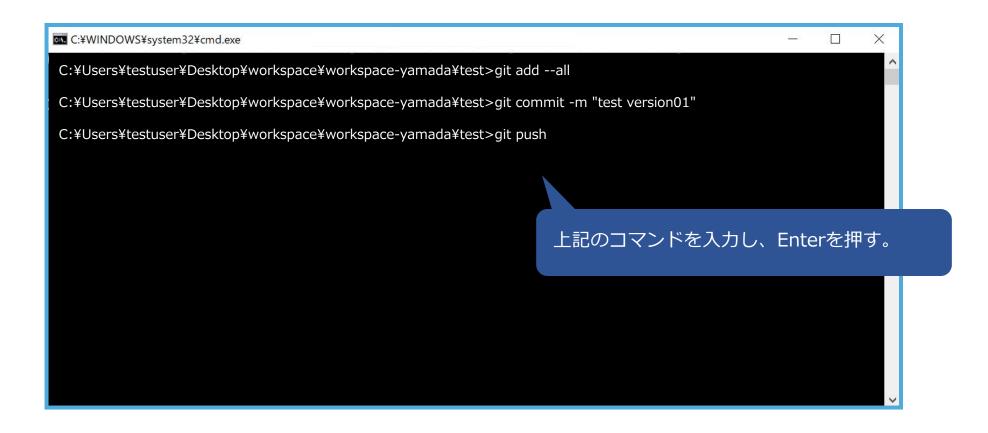


リモートリポジトリへの反映(git push)



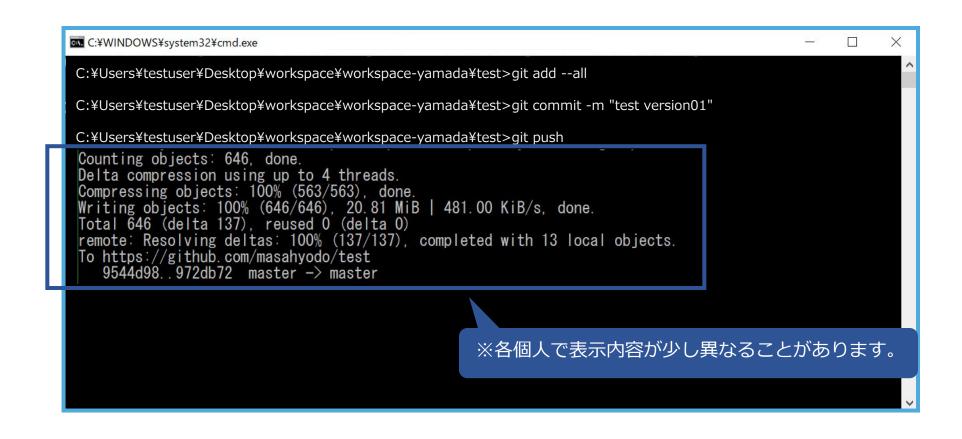
最後にGitHubにファイルをアップし反映させるコマンドが、git pushというコマンドです。 pushされるとGitHubにファイルがアップされます。

git push



リモートリポジトリへの反映(git push)

以下の表示になるとGitHubへデータアップロードは完了です。



エラーが出た場合①



同じパソコンでGitHubの操作を複数人行っている場合、Gitの設定を変更しないといけないケースがあります。 以下のようなエラーが出た際は、追加でコマンドを入力します。

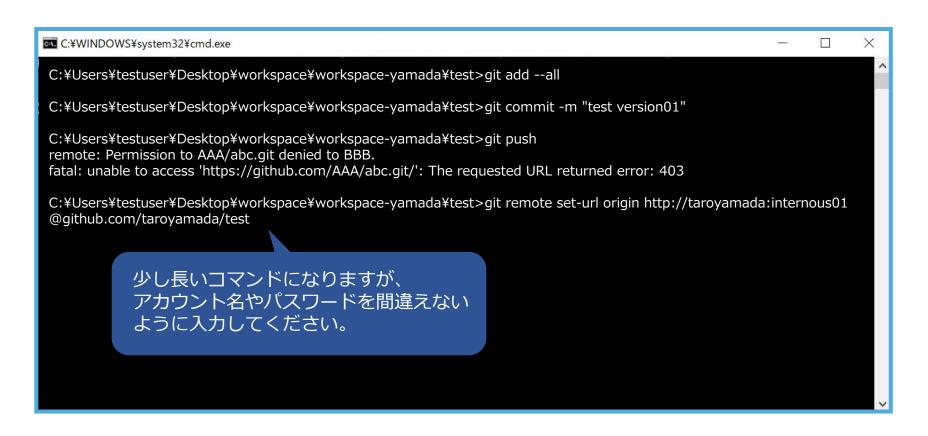


エラーが出た場合②

自分のgithubのアカウント名とパスワード

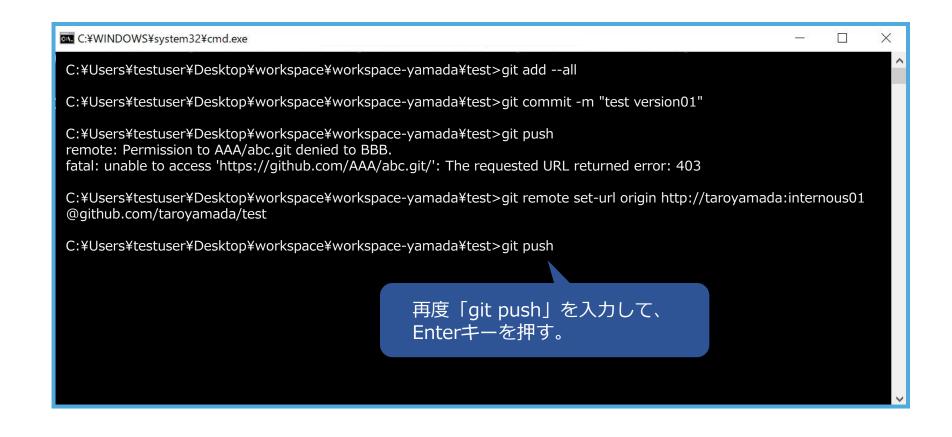
git remote set-url origin http://アカウント名:パズワード@github.com/アカウント名/test

を入力して、Enterキーを押します。



エラーが出た場合③

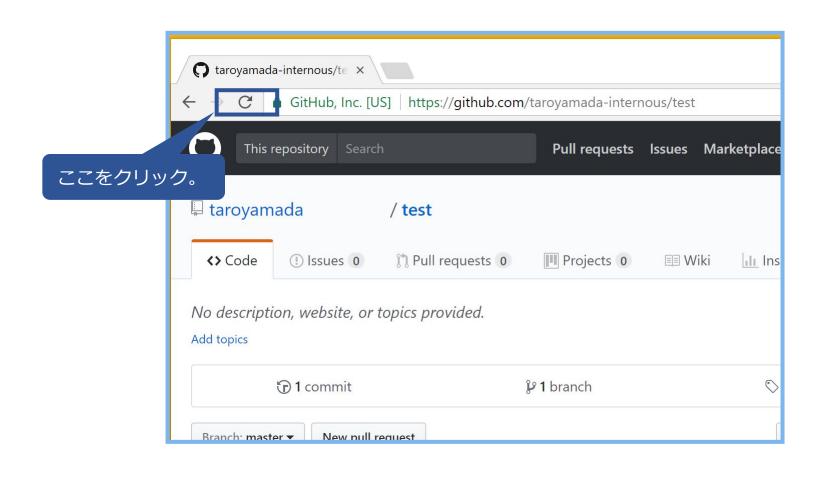
これでエラーが解消され、「git push」できます。



リモートリポジトリへの反映(GitHubで確認する)



リモートリポジトリに反映されたら、実際にGitHubで確認することができます



リモートリポジトリへの反映(GitHubで確認する)



以下のようにファイルが反映されたことが確認できます

